

世界のアーカイブズ活動に学ぶ！
現在から未来に向けた経営に、企業の記録資料をいかに活かすか

世界のビジネス・アーカイブズ

— 企業価値の源泉 —



9784816923531

公益財団法人 渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター 編
四六判・280頁 定価(本体3,600円+税) ISBN978-4-8169-2353-1 2012年3月刊行

記録資料の管理・活用について 国際的な最新動向を紹介

- 世界のビジネス・アーカイブズについて紹介する初の論文集です。国際シンポジウム「ビジネス・アーカイブズの価値—企業史料活用の新たな潮流—」で発表された論文の邦訳に加え、最新の重要な関係論文を収録しました。

国際シンポジウム：ビジネス・アーカイブズの価値 — 企業史料活用の新たな潮流 —

2011年5月11日開催 於：国際文化会館

シンポジウムでは企業活動の記録・資料は、経営資源として高い価値をもつことが報告された。適切に管理・保存され後世に残された企業の記録は、社会的にも重要な知的情報資源としての価値を帯びる。各国のビジネス・アーカイブズ及び関連政策の報告から日本とは異なる状況に触れ、企業関係者は大きな刺激を受けた。

世界的企業の具体例や 国をあげての取り組みなど…

- IBM社など代表的な一流企業では企業資料を経営にどう活用しているのか、将来を見据えた中国やイギリスなどの国家的枠組み作り、グローバル企業における各国にまたがる資料管理の方法など、著名な企業アーキビストによる実践・調査報告を収録。
- 各国各企業のビジネス・アーカイブズに対する姿勢とその方策・成果がわかります。

地方自治体アーカイブズにも応用できる

- 日本では2011年4月に公文書管理法(公文書等の管理に関する法律)が施行されました。今後公文書管理条例の制定が予想される地方自治体にも応用できるノウハウが詰まっています。

【目次】

まえがき 序章	歌田勝弘(企業史料協議会会長、元味の素(株)社長) 松崎裕子「世界のビジネス・アーカイブズ」
第一部 第1章	歴史マーケティングの力 ヘニング・モーゲン(A.P.モラー・マースク社、デンマーク) 「より幅広い視野で — 歴史的事実に基づく広報活動への支援」
第2章	ディディエ・ボンデュ(サンゴバン社、フランス) 「フランスのビジネス・アーカイブズ、経営に役立つツールとして — サンゴバン社の事例」
第3章	青木直己(株式会社虎屋、日本) 「日本における伝統産業とアーカイブズ—虎屋を中心に」
第4章	クラウディア・オーランド(アンサルド財団、イタリア) 「アンサルド財団—アーカイブズ、トレーニング、そして文化」
第5章	ケイティ・ローガン、シャーロット・マッカーシー(ブーツ社、イギリス) 「アーカイブズを展示することによる商業上の効果」
第二部 第6章	ビジネス・アーカイブズと全国的戦略 王嵐(中華人民共和国国家档案局、中国) 「資産概念の導入と中国における企業の記録管理へのその効果」
第7章	アレックス・リッチー(英国国立公文書館、イギリス) 「ビジネス・アーカイブズに関する全国的戦略(イングランドとウェールズ)」
第8章	アショーク・カプール(インド準備銀行、インド) 「インド準備銀行アーカイブズ—歴史資源そして企業資産」
第三部 第9章	アーカイブズを武器に変化に立ち向かう ベッキー・ハグランド・タウジー(クラフト・フーズ社、アメリカ) 「誇りある遺産—買収・統合後の歴史物語の重要性」
第10章	ヴルンダ・パターレ(ゴードレージ、インド) 「企業という設定のなかで歴史を紡ぐ —ゴードレージ=グループのシナリオ」
第11章	フランチェスカ・ピノ(インターザ・サンパオロ銀行、イタリア) 「合併の波の後 —変化への対応とインターザ・サンパオログループ アーカイブズの設立」
第12章	ポール・C・ラーサウィッツ(IBM社、アメリカ) 「アーカイブズに根を下ろして —IBMブランド形成に寄与する、過去の経験という遺産」
第四部 第13章	アーカイブズと経営 アレクサンダー・L・ビエリ(ロシュ社、スイス) 「企業のDNA—成功への重要なカギ」
第14章	アンドレア・ホーマイヤー(エボニック・インダストリーズ社、ドイツ) 「会社の歴史—化学企業にとっての付加価値」
第15章	エリザベス・W・アドキンス(CSC社、アメリカ) 「地方史か会社史か —多国籍企業海外現地法人アーカイブズの責任ある管理」
あとがき	小出いずみ
参考:	ビジネス・アーカイブズ国際シンポジウム プログラム

刊行にあたって

企業史料協議会 会長 歌田勝弘（味の素株式会社特別顧問 第7代代表取締役社長）

今回、欧米、中国、インド、そして日本と世界各国の実践報告に接し、アーカイブズが経営の資源として、また、激変する経営環境への戦略的ツールとして有効であるとの意を益々強くいたしました。

「ビジネス・アーカイブズ」と表明するには、一方の側にある「官のアーカイブズ」との共通面と差異の両方が明らかにされなければなりません。国家の重要な記録を全て国として残し、後世にそれを歴史記録として伝えていく責任のある「官のアーカイブズ」と、企業が経営資産として後の経営者、社員の事業活動に資するべく残していく「ビジネス界のアーカイブズ」とは自ずと異なる点があると思います。またビジネス・アーカイブズが当該企業のためだけにとどまらず、経済界全体の歴史観、経済史研究のためにも役に立つことも付け加えなければなりません。

それが今日求められる企業の社会貢献（CSR）、社会への還元の一環といえ、その必要性が問われています。情報開示責任、説明責任、あるいは欧米風の訴訟社会到来に備えてのアーカイブズも、極めて重要なものです。しかしそれ以前に「ゴ

イングコンサーン」としての企業には企業文化を貫くもの、つまりDNA—生物組織と違って放置していても自然に受け継がれる遺伝子ではないことから、むしろミームと呼ぶべきだと主張される学者もおられます—が脈々として流れていなければならない、その保持と全社員による共有化が、新しく直面するさまざまな困難への対応のために、なくてはならないものであるといえるのではないかと私は考えます。

経済性、効率性の追求はいうまでもなく企業の重要課題ですが、企業のアイデンティティーの確認こそが全社を挙げての取り組みの柱になる、欠くべからざるものです。企業のアーカイブズはそれを可能にするものであると思います。

従って、厳しい経済情勢にあってもなお、将来のために大切に保存育成していかなければならないものだと思います。ともすると直接経済効果に焦点を当てがちになる経営者の発想に、ビジネス・アーカイブズの重要性への注目が増し加えられていくように、渋沢栄一記念財団はじめ関係諸団体と共に、企業史料協議会も先進諸国に学びつつ、今後も活動してまいります。

「まえがき」より
抜粋しました

編者 公益財団法人 渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センター
<http://www.shibusawa.or.jp/center/index.html>

■実業史研究情報センターは、渋沢栄一を中心としてその時代背景や現代的意義をも視野に入れつつ、「資料」と「情報」を切り口に様々な情報資源を開発しており、「実業史錦絵絵引」「渋沢栄一関連社名変遷図」「企業史料ディレクトリ」などをウェブ上で提供している。ビジネス・アーカイブズの振興は渋沢栄一が唱えた「道徳経済合一主義」を実現する一手段と考えられることから、センターは、民間の企業・団体におけるアーカイブズ、記録管理分野でのベストプラクティスの紹介と、アーカイブズ・記録管理の普及・振興全般を目的として、メールマガジン「ビジネス・アーカイブズ通信」の発行やシンポジウムの開催などの活動を行っている。

2017.1

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	世界のビジネス・アーカイブズ —企業価値の源泉— 定価(本体3,600円+税) ISBN978-4-8169-2353-1	冊
		■お名前	